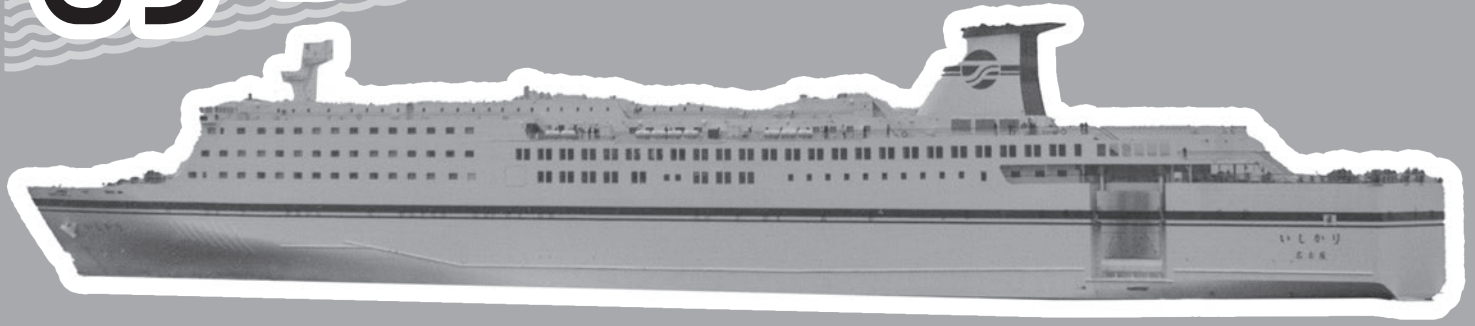




フェリーに乗ろう おひねに乗ろう



新幹線、夜行バス、飛行機、レンタカー。移動手段は数あれどあまり^{まじょう}船上に載らないのがフェリーである。今回はその中でも船上で一晩を明かすことのできる中・長距離航路に注目する。時間はどれくらいかかる？ 値段は高い？ そもそもどこを結んでいる？ そうした疑問に答えつつ、オススメの航路も紹介する。秋の行楽に、年末年始の帰省に、もしくは春休み期間中の旅行計画に役立てば幸いだ。(ふーぶ)
※値段や時間は2022年8月末日時点



船旅Q&A



Q₁ 船旅の良いところは？

A₁ 一番の良いところはゆったりと時を過ごせることだ。好きな時に好きなだけ外の風に当たる。何も考えず、はたまた考えごとをしながら流れゆく景色を眺める。朝に水平線から昇る太陽を見る。客室で思うだけ横になって本を読む。友人とカードゲームに興じる。売店やカフェテリア、レストランに足を伸ばして腹を満たす。大浴場で長旅の疲れを癒す。

移動時間は長い。時間の使い方は三者三様。乗り込んだらまずは広い船内を探索して自分に合った時間の使い方を考えてみると良いだろう。

Q₂ どこを何時間で結び？

A₂ 関西周辺発の中・長距離フェリーは四国、九州、東北、北海道方面に向かう。四国や九州方面は一晩、東北・北海道方面は丸1日がおおよその目安になる。以下に具体例を挙げる。

神戸～高松：4～5時間
大阪～東予（愛媛）：8時間
大阪／神戸～新門司（福岡）：12時間30分
敦賀（福井）～秋田：21時間
舞鶴（京都）～小樽（北海道）：22時間

はみだし
すてーじ

旅行に行きたいけど家にいたい、だから金沢が京都に
⇒編集作業したいけど旅行していたい、だからサークルは旅行先から。

(理・4 院試激落ちくん)
(オンラインって便利ですよね；編)

Q₃ どんな客室がある？

A₃ フェリーと言うとカーペットに雑魚寝という印象を持つ人も少なくはないが、長距離フェリーなどでは多様な客室がある。勿論カーペット席がある船もあるがベッドタイプの大部屋、1人用個室、複数人用の窓付き和室など予算と相談しながらその時々に応じた使い分けが可能な船が多い。また一部航路の大部屋では女性専用になっているものもある。

各海運会社ホームページの「船舶紹介」や「客室紹介」の中に写真付きで紹介されているので気になる航路が見つかった場合はそちらを参照されたい。

Q₄ 値段はどれくらいする？

A₄ 時期や客室の種類によって同じ区間でも値段が大きく振れ幅があるのがフェリーの特徴である。インターネット割引等を駆使するのが賢明だ。往復3000円台で神戸から高松が往復できる他、大阪から福岡まで食事付で片道6000円のプランもある。各社ホームページで割引制度を確認すると良いだろう。

港までの交通費、また夜行便の場合は運賃の他に食事代もかかることがあることに注意してほしい。

Q₅ どうやって予約する？

A₅ 最近では船会社のホームページから直接オンライン予約できるようになっている。またインターネット割引を使わない場合は予約せずに当日窓口に行ってその場で乗船券を買うのも一つの手だ。

また一部の中・長距離フェリーに関してはルネのトラベルセンターで扱っている「フェリーパック」というプランで申し込むという方法がある。この方法に関しては次ページの右下を参照されたい。

Q₆ 電波は通じる？

A₆ 海上を走るという特性上、たとえデッキに出ても常に電波が入る状態は期待できない。加えて窓の無い内側の個室や共用個室では完全に電波が通じず、船内Wi-Fiも入らないことがある。

ある程度電波が通じないことを想定して船内であることを考えておくとは有意義に時間を過ごせるだろう。

Q₇ 何を持っていく？

A₇ 個室の場合、大抵のアメニティグッズは揃っているので困ることはない。しかし他の客室タイプの場合は持ち込むか、または売店で購入する必要がある。船内で風呂に入るとなるとタオルは必要であろう。また長時間の旅になるので電波が無くても時間を有効に使える本などはオススメだ。

酔いやすい人は、酔い止め薬を持参すると良いだろう（売店でも購入可能なことも多い）。

Q₈ 乗るならいつ？

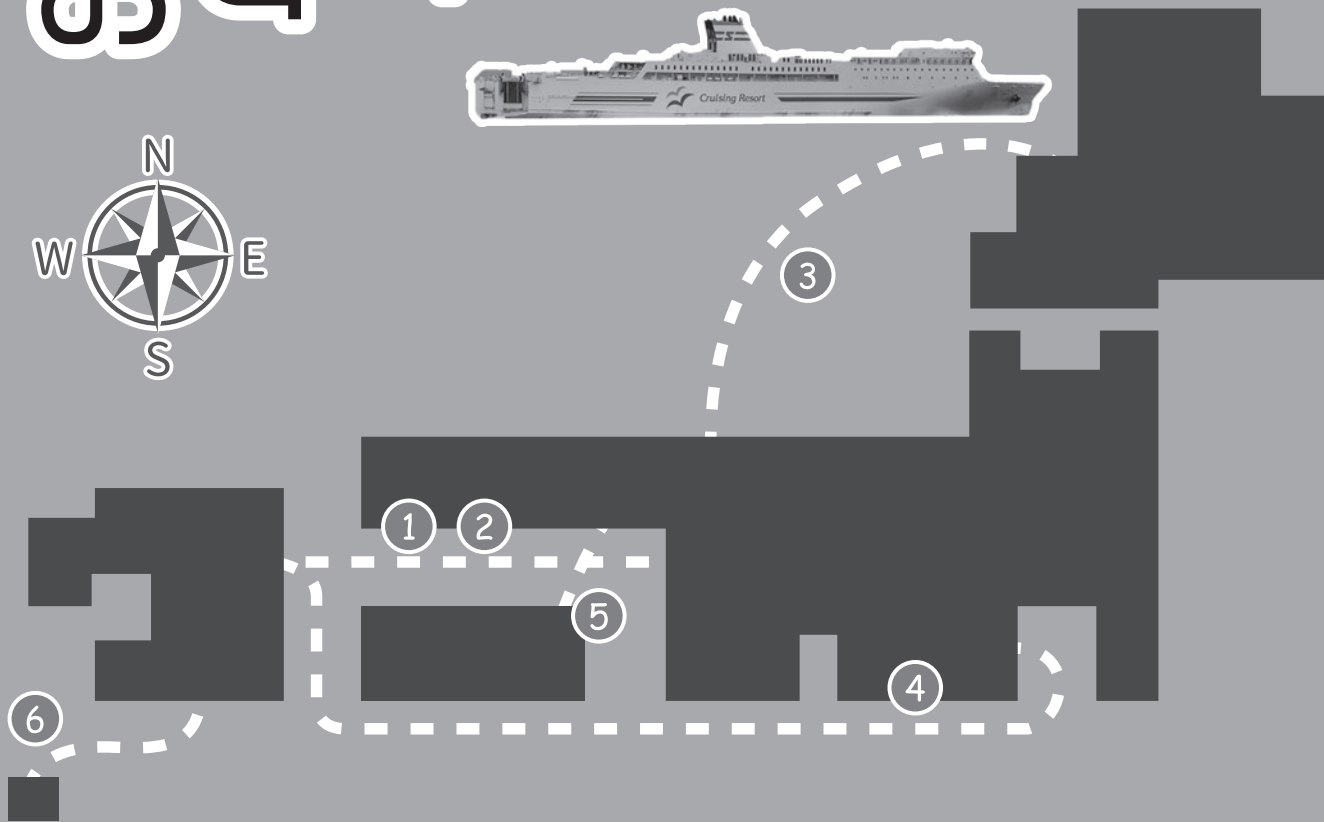
A₈ 海が荒れてしまうと乗り心地が悪くなったり、船酔いになってしまう船移動。天候次第ではデッキに出られなくなったり、そもそも「条件付き運航」や欠航になることも多い。冬の日本海や台風シーズンの太平洋は荒れることが想像に難くない。前々から計画する場合は天気が読めないのこうした季節を外しておくのが無難であるように思う。

直前に計画する場合はインターネットで波の高さ予報を確認して、波高予想が3m以上であれば他の行き先への変更を検討した方が良いでしょう。

瀬戸内海の航路に関しては外洋の航路に比して揺れないので季節はあまり関係ないが、日の出が早すぎず、外の風に当たっても寒すぎない春や秋が良いだろう。

とはいえ思い立ったが吉日。乗りたいときに港へ向かうのが一番だ。

船旅とはじめ おすすめ航路案内



1 阪九フェリー



区間：泉大津(大阪)/神戸～新門司(福岡)
 所要時間：12時間30分～
 値段：5950円～（スタンダード和室・ネット割引）
 特徴：同様の区間を結ぶ名門大洋フェリーに比べて食事のレパートリーと質が高いのが特徴。名門大洋フェリーと同様瀬戸大橋や明石海峡大橋を下から眺められる。

2 名門大洋フェリー



区間：大阪南港～新門司(福岡)
 所要時間：12時間30分～
 値段：5200円～（エコノミー・WEB割引）
 特徴：阪九フェリーよりも低価格帯が充実している航路。レストランの夕食はバイキングのみだが選択肢は非常に充実している上にリーズナブルだ。

はみだし
すてーじ

はみだしすてーじの欄を、紙面外にはみだしてみませんか？

⇒はみだしすてーじを投稿して下さる読者の皆様への感謝の念はいつもどれだけ欄があっても書ききれません。それはそうとこの欄、意外と幅があるので、はみ出すだけの文章を考えるのって結構大変そう……。尤も欄を埋めることくらいはできそうですが。(文字数:編)

(業・2 トマトマト)

3 新日本海フェリー



区間：舞鶴～小樽
 所要時間：21時間45分
 値段：8880円～（ツアーリストA・学生割引）
 特徴：日本海を一直線に結ぶ航路。夏になるとデッキで海を眺めながらジンギスカンを楽しむことが出来る。敦賀～新潟～秋田～苫小牧東など他の航路もある。

4 東京九州フェリー



区間：横須賀（神奈川）～新門司（福岡）
 所要時間：21時間15分
 値段：9600円～（ツアーリストA・学生割引）
 特徴：一番新しい長距離航路。無料のプラネタリウムや映画上映がある。好天時にデッキで開催されるBBQは抽選になるほどの人気。1度抽選に申し込んでみては。

5 ジャンボフェリー



区間：神戸～高松～坂手（小豆島）
 所要時間：4時間15分～（神戸高松間）
 値段：2300円～（高松まで、U25割・自由席）
 特徴：うどんが船内で楽しめる航路。今秋からは新しい船が運行を開始する予定。深夜便は関西から四国にアクセスするのもってこいだ。昼行便は500円引き。

6 マルエーフェリー



区間：鹿児島～名瀬（奄美）など～那覇
 所要時間：25時間（鹿児島那覇間）
 値段：11910円～（那覇まで、学生割引・2等和室）
 特徴：国内屈指の長距離航路。奄美地方の島々に寄りながら沖縄の青い海に行く。同様の区間のマリックスラインと併せて1日1便が運行されている。

知っく!「フェリーパック」

大学生協組合員ならぜひとも活用したいのが「フェリーパック」である。これはルネのキャリア&トラベルセンターでも取り扱っている大学生協組合員を対象としたフェリーの割引利用プランだ。通常のインターネット割引や学生割引の運賃よりもさらに安く利用できる航路もあるので是非検討材料にしてほしい。

このフェリーパックの中で特にお得感が強いのが東京九州フェリーだ。一番安いツアーリストAという等級が定価では片道12000円だが、フェリーパックでは、船内での食事や売店で使える3000円分の船内利用券が付いて10000円！ 額面としては通常の学生割引が最安だが、食事など総額で見るとフェリーパックが最安だ。

今回紹介した航路の一部、そして他の航路もフェリーパックがあるので、ルネに相談しに行ってみてはいかが。

おわりに

島国日本。紹介しきれなかった中・長距離フェリーの中にも良い航路は数多くある。そして今回全く触れられなかった瀬戸内の島々を結ぶような短距離航路もまた別の趣がある。旅行計画を立てる時に現地までの移動手段としてフェリーがないかを探してみれば、これまでにないような旅行体験ができるだろう。

乗船を旅行の目的の1つにすることもできる。近年始まった「御船印」めぐりプロジェクトでは全国の船会社が協力して各船ごとに御朱印を発行している。御船印帳を用意して楽しい思い出や乗船記録を手元に残すことができる。オススメだ。

兎に角一度乗ってみることだ。そして水平線から昇る太陽を眺めて見てほしい。あの景色の為だけにでも船に乗る価値はある。Bon Voyage!! 良い旅を。

はみだし
すてーじ

海の日には山に行き、山の日には海に行く予定です。
 ⇒スポーツの日にお家でいたら過すのも良さそうですね。

(理・3 Benthos)
 (ピバ逆張り精神! ; 編)